

目 次

文化相渉活動の諸相とその担い手

序 文	山 室 信 一	i
—— 文化相渉理論の形成をめざして ——		
18 世紀ロンドン貿易商の家族史	坂 本 優一郎	1
—— ファン・ネック家の事例にみる文化の境界と社会的結合 ——		
戦時下の「モヤヒ」	鶴 見 太 郎	39
—— 「柳田国男先生古希記念會」に見る ——		
<small>センス・オブ・ディスタンス</small> 距 離 感	菊 地 暁	61
—— 民俗写真家・芳賀日出男の軌跡と方法 ——		
「満洲国」期ハルビン朝鮮人の「対日協力」	田 中 隆 一	97
南洋協会という鏡	河原林 直 人	113
—— 近代日本における「南進」を巡る「同床異夢」 ——		
近代大衆消費社会出現の一考察	早 瀬 晋 三	141
—— アメリカ植民支配下のフィリピンと日本商店・商品 ——		
幻の「ハーグの平和」	酒 井 一 臣	171
—— 戦間期国際協調外交の原型 ——		
日米安保体制と台湾の国家安全保障	呉 春 宜	191
—— 周辺事態法の適用を中心として ——		
文化相渉活動としての軍事調査と植民地経営	山 室 信 一	227